

遊休地を活用して新事業で分社化

今年3月に設立された「えひめ一次産業応援投資事業有限責任組合」の第1号投資先として、ゴルフ場の遊休地を活用した原木シイタケ栽培事業に決定した。

るので道の駅でも販売します。来年はもっとたくさん採れる予定なので、機械などが必要になりますし、山も整地して栽培面積を広げたり果物も栽培したいと思い、シイタケの栽培事業を分社化し、ファンDに出資を申請しました」

と、藤井氏。現在、取引先や食品会社を通じて販路を開拓しており、ゆくゆくは食品メーカーと提携して「干し椎茸」や「冷凍椎茸」といった商品も開発したいと話す。

「グリーンボックスは、シイタケや果物の栽培だけでなく、ゴルフ場を活用したアウトドアイベントの企画も行っています」(藤井氏)

将来的には、障害者雇用などシイタケ栽培で福祉に貢献し、イベントでゴルフ場を開放するなど、地域に根ざした事業展開を目指しているという。

新たな収入や地域貢献に繋がる可能性があるだけに、遊休地の活用は検討の余地がありそうだ。

「えひめ一次産業応援投資事業有限責任会社」は、地場産業の持続的な発展や地方創生のため、(株)愛媛銀行とひめぎんリース(株)、大和フード&アグリ(株)(大和証券グループ)との共同出資で設立したファンD。農業や林業など一次産業の企業を投資対象としており、経営コンサルティング支援なども行うとしている。

その投資先第1号に決定したのが、松山シーサイドカントリークラブ(愛媛県・18H)の遊休地を活用して原木シイタケを栽培し、11月中旬に設立予定の(株)グリーンボックス。

「松山シーサイドCCCは、当初は27Hの計画でしたが、土地の一部を取得できず、1977年に18Hでオープンしまし

た。以来、9日分の土地や山は手をつけずそのままの状態だったため、何かに活用できないかと、模索していました。そうしたなか、高齢化によって離農する原木シイタケの栽培農家が増えていると聞き、それを引き継げば地域貢献になりますし、山の木も活用できるのではないかと思ったのが、原木シイタケ栽培を始めるとききっかけでした」

と語るのは、同CCCを運営する西武観光(株)の専務取締役で、(株)グリーンボックス代表取締役の藤井より子氏。

専門家にアドバイスを求めたところ、同CCCの山の木はシイタケの栽培には使えないことがわかったが、2年前に原木を10t購入し、1年で収

穫可能な種菌と、収穫まで2年かかる種菌を5tずつ植え付けた。1年後、初めて収穫したシイタケをレストランで使用したり、ゴルフ場売店で販売した。また、原木を80t仕入れて、20t分には1年の種菌、60t分には2年の種菌を植え付けた。現在、ゴルフ場内で3カ所、計約2000㎡の敷地を活用して栽培しているという。

「種菌の植え付けと収穫はともに12〜3月で、ゴルフ場は閑散期になるので、コース管理スタッフやキャディに手伝ってもらいました。それまで閑

散期のスタッフの活用が経営課題になっていたもので、その問題も解消しました。今冬は原木25t分のシイタケが採れ